宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況

宮崎公立大学交流センターは、地域住民の生涯学習及び外国人留学生との国際交流の拠点を目指して建設されたものです。

交流センター内には、生涯学習や国際交流のための講演会等が開催できる多目的ホール、会議室、和室、交流ラウンジがあり、蔚山大学校や蘇州大学からの短期留学生の受け入れ行事や日本文化体験の場として使われるほか、一般市民向けの語学講座や学外団体による研修会など、学内外者が利用できる施設として広く活用されています。

一方、凌雲会館は、本学が開学10周年を迎えたことを記念し建設され、1階が学生支援センターと学生支援課、2階が地域研究センターになっており、主として学生や課外活動団体、本学の教職員及びそれらが関わる団体などが使用する施設です。

1　令和4(2022)年度施設利用状況

施設名＼利用件数		利用件数	備　　考
交流センター	多目的ホール	113	
	会議室	128	
	和室	96	
凌 雲 会 館	会議室AB	4	
	共同研究室	151	
	IT教育支援室	―	随時学生に開放

2　行事等別の施設利用率

施設名＼行事等		学内行事 ＊1	講座等 ＊2	教員関連 ＊3	学外行事 ＊4	課外活動 ・ 学生使用
交流センター	多目的ホール	31.9%	7.1%	9.7%	29.2%	22.1%
	会議室	12.5%	0.8%	8.6%	62.5%	15.6%
	和室	12.5%	2.1%	2.1%	5.2%	78.1%
凌 雲 会 館	会議室AB	100.0%	―	―	－	－
	共同研究室	22.5%	63.6%	13.9%	－	－
	IT教育支援室	随時学生に開放				

＊1 学内行事：短期留学生研修、大学訪問等　　＊2 講 座 等：各種講座等
＊3 教員関連：授業等　　＊4 学外行事：他団体研修等
※令和4(2022)年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、凌雲会館をオンライン授業の受講会場や就職活動(Web面接)の為のスペースとして学生へ開放した。

令和4(2022)年度　地域貢献部会　開催実績

	開催日時	開催場所	主　な　議　題　等
第1回	令和4年4月26日（火） 10:30～11:45	凌雲会館 共同研究室	・令和4年度自主講座開設許可申請について ・宮崎公立大学公開講座等実施基準（新型コロナウイルス感染症関連）の改定について
第2回	令和4年5月31日（火） 10:30～11:30	凌雲会館 共同研究室	・令和4年度定期公開講座について ・令和4年度後期開放授業について
第3回	令和4年6月28日（火） メール送信	メール 審議	・令和4年度リカレント教育プログラム「ホテル接客英語講座」について
第4回	令和4年7月26日（火） 10:40～11:30	凌雲会館 共同研究室	・開学30周年に係る採択候補事業の実施計画作成について ・令和5年度リカレント教育プログラムについて
第5回	令和4年8月30日（火） 10:40～11:15	オンライン 会議	・【継続】開学30周年に係る採択候補事業の実施計画作成について
第6回	令和4年9月27日（火） 10:40～11:40	凌雲会館 共同研究室	・【継続】開学30周年に係る採択候補事業の実施計画作成について ・リカレント教育プログラム検討委員会（仮称）設置について ・令和4年度計画に係る進捗状況の入力について ・令和4年度定期公開講座のアンケートについて

	開催日時	開催場所	主　な　議　題　等
第７回	令和４年 11 月 29 日（火） 11:00～12:00	凌雲会館 共同研究室	・令和５年度定期公開講座について ・令和５年度開放授業について
第８回	令和５年１月 17 日（火） 10:00～11:45	凌雲会館 共同研究室	・令和４年度計画業務実績（案）、令和５年度計画（案）及び第３期中期計画暫定実績（案）の入力について
第９回	令和５年３月１日（水） 13:30～15:20	凌雲会館 共同研究室	・開放授業について ・令和５年度自主講座について ・令和５年度語学講座について ・令和４年度計画業務実績（案）及び令和元年度から令和４年度までの業務実績（案）の修正について

新　聞　掲　載　記　事　一　覧

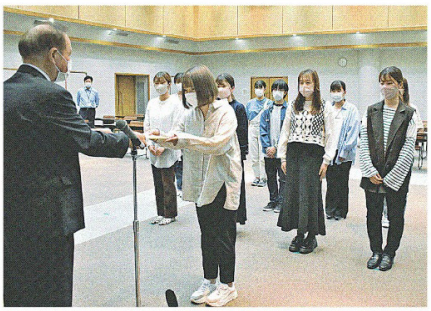
	掲　載　日	掲　載　紙	見　　出　　し
1	令和 4 年 5 月 27 日	宮崎日日新聞	若者の選挙関心高めて 公立大「ライツ」委員委嘱
2	令和 4 年 8 月 28 日	宮崎日日新聞	平和願い避難民支援
3	令和 4 年 10 月 17 日	宮崎日日新聞	ウクライナ避難民駅で案内
4	令和 4 年 12 月 3 日	宮崎日日新聞	学生の立場でできることを
5	令和 4 年 12 月 7 日	宮崎日日新聞	災害危険箇所地域歩き確認 西池小児童

令和４年（2022年）　５月27日（金）
宮崎日日新聞社提供

宮崎市

若者の選挙関心高めて

公立大「ライツ」委員委嘱



長田一郎会長（左）から委嘱状を手渡される宮崎公立大選挙啓発部「ライツ」のメンバー

若者に選挙へ関心を高めてもらおうと、宮崎市明るい選挙推進協議会（長田一郎会長）は24日、宮崎公立大の選挙啓発部「ライツ」の学生28人を委員に委嘱した。３人が常任委員として同協議会の会議に参加するほか、インスタグラムを使った啓発活動などを通して投票率向上を目指す。

委嘱式は同大学であり、学生17人と大学や市選挙管理委員会の関係者が出席。長田会長が１人ずつ委嘱状を手渡し、「今年は参院選、県知事選などがあり、市の投票率向上に向けた啓発に積極的な協力をお願いします」と呼びかけた。

同部は２０１６年にサークルとして発足して以降、部員が同協議会委員の委嘱を受けている。今夏の参院選に向けては、投開票日の２週間前からインスタグラムで投票を呼びかけるカウントダウンを行う予定。部長で３年の草野楓さん（20）は「投票率が低い若者の意識を変えられるよう広報などを頑張りたい」と話していた。（甲斐延明）

県央

令和４年（2022 年）　８月 28 日（日）
宮崎日日新聞社提供

平和願い避難民支援

ウクライナ侵攻　来月ポーランド派遣

日本財団ボランティアセンター（東京）が主催する「ウクライナ避難民支援日本人学生ボランティア派遣」のメンバーに、宮崎公立大国際文化学科４年の中野すみれさん(22)が選ばれた。平和への強い思いを胸に来月、ウクライナの隣国・ポーランドに渡り、「折り紙などで子どもたちの心のケアにも取り組む」と意気込む。同センターによると、県内の学生の派遣は初めて。（２面参照）

「子どもの心ケアしたい」

宮崎公立大４年 中野すみれさん(22)

同センターは今年５月から計４回、学生ボランティアをポーランドの避難民一時滞在施設などに派遣。中野さんが参加する第５グループの14人は９月３～19日、同国を拠点に食料、物資の配布や管理、避難民の日常生活の支援を行う。

以前から国際協力に取り組んできた中野さん。４年になり、卒業論文の仕上げに向け忙しい毎日だったが、日々飛び込んでくるロシアのウクライナ侵攻のニュースから目を背けることはできなかった。

テレビに映る家をなくした人や、親とはぐれた子どもたちの姿。「自分には何ができるのか」と思案していた折、知人から同ボランティアの話を聞き、参加を即決。語学力のテストや応募の理由などを問う選考を経て派遣が決まった。

北九州市出身の中野さんは、幼少の頃から海外への憧れがあり、そこでのボランティアに興味を持ったのは３年前。カンボジアで民家を建てるボランティアに友人から誘われ、内戦後、貧困に苦しむ人たちに接し、力になりたいと思った。以来、海外で住居建築活動を行う学生ボランティア団体「Step to Peace」の運営に携わったり、休学してカナダで８カ月間の語学留学を行ったりしてきた。

活力の源は、平和への強い思いだ。「同じ人間として生まれてきて、平和に過ごせる人とそうでない人がいる。平和な日本にいるからこそ、そういった人たちの力になりたい」

卒業後は福岡県の国際物流会社への就職が決まっており、経験を積んだ後、将来は国際ボランティア団体への参加も思い描く中野さん。これまでの「集大成」として赴くポーランドでは、子どもたちと積極的に関わるつもりで、「折り紙を持って行く。子どもたちと一緒に遊んで、心のケアや良い思い出をつくる手伝いができれば」と話している。（中城佑平）

★「プレみや」にも掲載

平和への強い思いを胸に、ウクライナ避難民支援でポーランドに渡る中野すみれさん＝26日午後、宮崎市・宮崎公立大

令和４年（2022 年）　10 月 17 日（月）
宮崎日日新聞社提供

ウクライナ避難民 駅で案内

日本財団ボランティアセンター（東京）が主催する「ウクライナ避難民支援日本人学生ボランティア派遣」の一員としてウクライナの隣国・ポーランドなどで活動していた宮崎公立大国際文化学科４年の中野すみれさん(22)＝北九州市出身＝が約２週間の派遣を終え、先月帰国した。緊張した雰囲気の国境近くの駅で、乗り換えの案内などに従事し、当事者らと心を通わせる経験もした中野さん。「今でも先行きの見えない生活を送っている人がいることを知ってほしい」と訴えている。（５面参照）

隣国ポーランドでボランティア

宮崎公立大４年 中野すみれさん(22)帰国

「関心持てば現状変わる」

中野さんを含む学生ボランティアの14人は、９月３日に日本を出国。２チームに分かれ、ポーランドとオーストリアで約１週間ずつ活動し、19日に帰国した。

最も気を使ったのが、国境から約15㎞のポーランド・プシェミシル駅での支援活動だった。構内の案内や、避難民の荷物の運搬、水の配給…。駅は故郷を追われ、先を急ぐ人々であふれ、ピリピリした緊張感が漂っていた。

「案内するホームを間違えると、相手の人生を変えてしまう。失敗は許されない」。乗り換えの案内は特に重要な任務で、ボランティアであることを示す黄色のベストを着た中野さんらの周辺には、列車が到着する度、多くの避難民が集まった。

焦った様子で乗り換えの場所や時刻を聞かれるが、頼みの英語が通じない。中野さんは身ぶり手ぶりや翻訳アプリ、簡単なウクライナ語の指さしボードを使い、「なんとかコミュニケーションを取ろうと必死だった」と振り返る。

厳しい環境ではあったが、避難民との心の交流も生まれた。泣いていた男の子に、気休めになればと折り紙の手裏剣を手渡した。しばらくすると男の子がやってきて、折り紙の鶴とかぶとをくれた。ユーチューブで勉強したのだという。「つらい状況なのに、私のために折ってくれて、本当にうれしかった」

帰国後、ウクライナのニュースを見る度、知り合った人の顔が浮かび心配になるという中野さん。「遠い国の出来事だと感じる人が多いかもしれないが、少しでも関心を持ってもらえるだけで現状は変えられる」と話していた。（中城佑平）

★「フレみや」にも掲載

ポーランドのプシェミシル駅で避難民の荷物を運ぶ手伝いをする中野すみれさん（日本財団ボランティアセンター提供）

令和４年（2022 年） 12 月３日（土）
宮崎日日新聞社提供

学生の立場でできることを

子どもの貧困、性の多様性…

宮崎公立大サークル 社会問題取り組む

映画監督の佐野翔音さん（左）とパネルディスカッションで児童虐待についての議論を深めた宮崎公立大生ら＝２日午後、宮崎市・宮崎公立大（米丸悟撮影）

学生目線で子どもの貧困や性の多様性の理解促進といった社会課題に取り組もうと、宮崎市・宮崎公立大生による「フラットサークル」（後藤涼部長）が新たに発足し、熱心に活動している。２日は、同大学で開かれた児童虐待をテーマにした映画上映会に協力。監督とのパネルディスカッションを通し、社会問題への学生の関わり方を探った。

同大学の四方由美教授が主宰するゼミ「メディアとジェンダー演習」から発展し、本年度設立。サークル名は誰もが「フラット」な立場でいられ、「ふらっと」集まれる居場所づくりをとの思いを込め、１～４年生20人が所属する。

２日の映画「わたし、生きていていいのかな」の上映会は県人権啓発推進協議会の委託を受けm20（綾町）が企画・運営。監督・脚本を手がけた佐野翔音（ショウおん）さん（横浜市）とのパネルディスカッションでは、１年生２人が「映画に込めた思いは」「学生の立場でできることは」などと質問し、佐野さんは「支援者の思いを代弁し、現状を多くの人に知ってもらいたいとの思いでつくった」と説明。「大学生が、サークル活動で社会問題を考えていることが心強くうれしい。まずは地域の子どもにあいさつをして、顔見知りになってみては」と助言した。

サークルでは月２回、各自が関心のあるテーマの新聞記事などを持ち寄り、活動方針を決めている。８月には宮崎市で開かれた、性の多様性尊重の啓発パレードにも参加。今後は子どもへの食料支援も計画する。後藤部長は「学生として何ができるかを考え、地域に貢献していきたい」と話していた。（徳留亜弥）

★「プレみや」にも掲載

令和４年（2022 年） 12 月７日（水）
宮崎日日新聞社提供

災害危険箇所 地域歩き確認

西池小児童

宮崎市・西池小（875人、衣笠高広校長）の5年生が6日、地域の危険箇所や災害時の避難場所などを調べる「ストリートウォッチング」を体験した＝写真。児童99人が参加し、宮崎公立大の辻利則教授が開発したウェブアプリを活用しながら地域を巡った。

災害時に自ら行動できる知識などを身に付けてもらおうと毎年実施。中央西まちづくり推進委員会（徳満秀夫委員長）や、辻教授の研究室の学生約40人が協力した。

児童たちは県総合文化公園から同校まで、タブレットを手に歩いた。途中で損傷している歩道や津波避難ビルを見つけると写真を撮り「つまずいて危ない」「災害時避難場所」など音声も記録した。

横山亜虹（あこ）さん(10)は「地域の危険箇所や避難場所など、今日学んだことを災害時に生かしたい」と話していた。